



みんなを笑顔に 折り紙のつくる世界

折り紙グループ
オリーブ

代表 山田幸子さん

(北栄町)

平成16年に子ども向けの講座開設のために結成されましたが、現在では高齢者のボランティア、大人向けの講習会の開催など折り紙を通じた幅広い活動を実施しています。

たかが折り紙 されど折り紙

「折り紙とは子どもの遊びと言うイメージがありますが、大人も夢中にさせる魅力があるんです。ホントに折り紙って奥が深いものなんです。」

土曜日の子どもの居場所づくりのため、当時、教育委員会が行っていた事業と連携して立ち上がったこの会ですが、だんだん仲間も増えて、子ども向けの内容から、高齢者、大人も楽しめる幅広い活動に発展してきました。

折鶴のようなやさしいものから、大人でも一回では覚えられない難しいものまで幅広い作品を作ることができます。今は「されど折り紙」という気持ちで取り組んでいます。

心掛けていることは、なるべく季節感のあるものを折るようにしています。正月、節分、お雛様、鯉のぼり、七夕、夏祭り、クリスマスなどに関係した作品は特に子どもたちが喜んでくれますね。

折り紙の魅力を伝える 目に見えない積み重ね

高齢者の方々と共に楽しむ機会がありますが、折り紙は細かく指先を使うことや、目や頭を使って考えることが多いので、脳の活性化にも役立つと、大変喜ばれていますね。

子どもさんや、高齢者を対象としたボランティアの活動が主ですが、年に一回、町民の大人の方を対象に「折り紙教室」を開催しています。

参加者全員が、時間内に作品を仕上げるができるよう、事前に折ってみてタイムを計り、リハーサルをする配慮も忘れません。

折り方を説明しながら、会場全体を見渡し、一人でも遅れることの無い様、指導する会員は常に心配りを忘れないようにしています。

また、一度作ったものは二度と折らないようにと、毎月一度、オリーブの仲間で勉強会を開いて、札幌へ習いに行っている会の仲間から、新しい作品を教えても

らっています。

私も、新聞や雑誌に載っているものを見て「これは使えるな」と思ったものは切り抜いて参考にしています。

秘訣は 自分たちも楽しむ

上手に折る、巧く作る、綺麗に仕上げる、それを目標とすることはもちろんですが、いちばん大事なことは、その場の雰囲気づくりです。和、暖かさ、良いコミュニケーション、とにかく楽しまなければダメですね。折り紙を通して、その時間を楽しく過ごしていただきたい。私たちオリーブは、周りの人たちの喜ぶ姿を見て共に楽しませて頂いています。

現在、会員は13名。ひとりひとりが良く気が付き、良く動き、良いアイデアを出してくれる。そして、何よりも明るい。

この「和」がある限り、オリーブはこれからも楽しく、気負わず、ボランティア活動を続けて行けるとおもいます。